

家からの委託醸造にも応じ、管内ワイン生産の裾野を広げる考えだ。

相澤代表は「十勝でワイナリーが増えるきっかけとなり、十勝産ワインのレベルアップにもつながればうれしい。十勝をワインの一大産地にしたい」と話している。

道内では後志管内を中心にワイナリーの開設が進み、今年2月現在、37カ所と10年で倍以上に増加した。国内では山梨県、長野県に次いで多い。気象条件が厳しい十勝でもワインアカデミーが開催されるなど開設機運は盛り上がっており、あいざわ農園以外にも複数の計画が進んでいる。

十勝初 農業ベンチャー賞 帯広 ファームノート

2019年5月24日

政府は23日、「第5回日本ベンチャー大賞」の表彰式を首相官邸で開き、ICT（情報通信技術）による牛群管理システムを開発・販売するファームノートホールディングス（帯広市、小林晋也社長）が、農林水産大臣賞（農業ベンチャー賞）を受賞した。十勝関係企業が同賞関連で表彰されるのは初めて。

◆「ICTでより良く」農水大臣賞



牛の首に取り付けるファームノート・カラーを示す小林社長
(2018年1月)

日本ベンチャー大賞は、社会的に強い影響力を持つ新事業を手掛けた起業家をたたえる賞。内閣総理大臣賞（大賞）、経産大臣賞（ベンチャー企業・大企業等連携賞、女性起業家賞）、農林水産大臣賞、審査委員会特別賞が選ばれた。

小林氏は帯広市出身で2004年、IT関連のスカイアークシステム（現スカイアーク）を帯広で創業。「世界の農業の頭脳を創る」との思いから13年にファームノートを立ち上げ、16年にはファームノートホールディングスを創設した。日経ビジネスの「次代を創る100人」にも選ばれている。

同社は、飼育する牛の個体情報をスマートフォンやタブレット端末で記録し、整理・分析できるシステム「ファームノート」や、牛の首に取り付けて体調変化を通知する「ファームノート・カラー」などを開発した。ファームノートは国内2900ユーザー、29万頭の牛に利用されている。

23日に東京の首相官邸で開かれた表彰式後、小林社長は「国の中で大切な仕事を任せられている実感を強く持った。生産者と日本の農業をより良くしていきたい」と語った。

大賞は、人工知能（AI）関連で先進的な取り組みを行う「Preferred Networks」（東京）が選ばれた。

渡さん（更別）農林水産大臣賞

2019年7月6日

J A全中などが主催する「2018年度（第47回）全国豆類経営改善共励会」の表彰式が6月27日、都内のコートヤードマリオット銀座東武ホテルで開かれた。「小豆・いんげん・落花生等の部」で、最高賞となる農林水産大臣賞を受賞した更別村の渡基文さん（35）に賞状と記念品が贈られた。

◆小豆・いんげん・落花生等の部 全国豆類経営改善共励会

同共励会は、国産豆類の生産振興を目的に、先進的で全国の模範となる生産農家・集団を表彰している。同部の大臣賞は17年度の真野農場（中札内）に続き、十勝から2年連続の受賞となった。

表彰式には渡さんと妻の純奈さんが出席。吉川貴盛農水大臣は「今後も第一人者として豆作り技術の向上に尽力してもらいたい」と祝辞を述べた。

渡さんは「大変名誉な賞を頂きうれしい。この賞に恥じないような経営を目指し努力していきたい」と話していた。



表彰された基文さんと妻の純奈さん